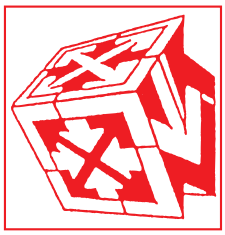
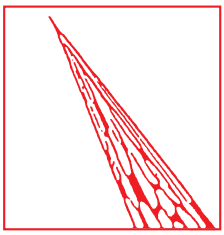
ＩＳＳＮ　1342－0968

広島大学図書館館報



LiAison



（ホームページ　http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp）　Vol.30　Sep.2005

本号のみどころ

- 新館長のご挨拶
- フレンドリー利用証について
- 海外研修報告特集：北欧、米国、中国、ICOLC会議（米）
- ホームページから利用できる新しいサービス

Hiroshima University Library
LiAison Vol. 30
Sep. 2005

目　　次

○目　次 …… 2
○巻頭　図書館の事業展開と将来構想 ……図書館長　位藤　邦生 …… 3
○「広島大学図書館フレンドリー利用者」を募集するまで …… 板谷　　茂 …… 4
○始動　研究開発室 …… 藤川　功和 …… 7
○広島大学図書館教員著作寄贈制度と広島大学フェニックス文庫 …… 諸富　秀人 …… 9
○海外研修報告集
・北欧における平和学関連図書館の調査報告 …… 尾崎　文代 ……11
和田　由季
・米国における大学図書館運営及びサービス活動等に
関する調査報告 …… 鈴木　秀樹 ……15
藤井　武志
寺見　俊昭
・中華人民共和国（北京）の大学図書館を訪問して …… 橘　美紀子 ……20
萱野　靖子
・ICOLCボストン大会参加と近郊図書館訪問 …… 庄　ゆかり ……22
○新サービスあれこれ
● 中央図書館
アメニティコーナー、海外衛星放送テレビ ……25
地域交流プラザ、レファレンスカウンター ……26
● 西図書館　フロアサービスの充実について …… 西本　篤夫 ……27
● 東図書館
情報リテラシー研修室開設と無線LAN環境整備について …… 高橋　弘子 ……27
● 医学分館の整備について …… 土佐　智義 ……28
○ホームページから利用できる新しいサービス
●「原爆・被ばく関連資料データベース」公開…… 西本　　勉 ……31
● オンラインチュートリアルに触れてみよう …… 川上　　裕 ……32
● 広島大学所蔵奈良絵本・室町時代物語 …… 尾崎　文代 ……33
○平成16年度図書館事業報告
● 講演会・シンポジウム等 ……35
● 主要行事等報告（2004年5月～2005年6月） ……37
● Library Navigator Series …… 江森　早穂 ……39
○広島大学図書館統計 ……41
○トピックス ……42

図書館の事業展開と将来構想

広島大学図書館長
位藤　邦生

このたびはからずも図書館長になりました。実は２回目の登板で、一から勉強して、などと言えないのが、辛いところです。法人化後、それまでの附属図書館運営委員会にかわって、図書館運営戦略会議が発足しました。私もその一員として最初から加わっていたので、この一年の動きをつぶさに承知していたつもりですが、館長の立場から、一年余の動向をもう一度ふりかえり、当面する諸課題を整理して、今後の事業展開と将来構想について考えてみることにします。

図書館運営戦略会議とは少々無粋な名称ですが、従来と違って「打って出る」図書館の姿勢をあらわしてもいます。吉里前館長のご尽力と、関係部局の強い要望によって、本学の教育研究を向上に資するため、学術情報の安定的供給と予算の効率的運用を図る事を目的とし、全学の電子ジャーナル購入にかかる費用の共通経費化が実現しました。ご承知のように法人化後、部局に配分される予算は確実に減っています。また運営費交付金の漸減も決まっています。こうした状況の中では、無駄をはぶき、予算をいかに効率的に用いるかが最重要の課題になってきます。電子ジャーナルをEオンリーの契約にすれば、紙媒体を特に必要とする分野には、それも格安で提供されます。また大学間コンソーシアムを形成して、契約を結べば、これも費用の節約に有効です。図書館は今後とも、あらゆる学術分野の要望を真摯に受けとめ、諸分野の利益と発展のために、積極的にその役割を果たしてゆきます。今後、人文社会系分野についても「共同利用資料の共通経費化」をさらに推進する必要がありましょう。

図書館員の海外研修も積極的に行われています。そこから生まれた成果の一つとして、本年度はSIPRI（ストックホルム国際平和研究所）との業務提携によって、同研究所が運営するデータベース「FIRST」の構築に参加することが予定されています。「平和を希求する精神」を理念五原則の一つに掲げる、広島大学の事業として、大きな期待が寄せられています。

さらに学術雑誌の高騰と購入タイトルの激減に対処するために、機関リポジトリ（大学等の学術機関で生産された知的生産物を保存し、無償で公開することを目的とした電子アーカイブシステム）を実現したいと考えています。日本では今のところ千葉大など５機関のみで実施されており、広島大学はその実現に積極的に取り組みたいと思っています。

最後に地域との連携について述べてみます。すでに図書館主催で２回のLibrary Navigator Series が実施され、多くの方々の参加を得ました。広島大学で行われている教育研究と図書館所蔵資料を、学内だけでなく、広く地域の人々に知っていただくために企画されました。ご参加くださった方々のご要望に応えて、今後も順次開催される予定です。「地域交流プラザ」の開室とともに、社会連携の一環としてのこうした活動は、ますます盛んになりましょう。

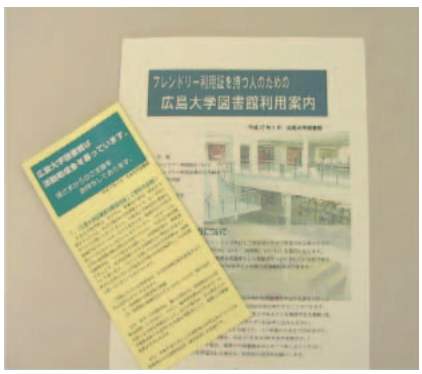
以上、図書館の事業展開と将来構想に関して、その一端を紹介しました。今後ともよろしくご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申しあげる次第です。

『広島大学図書館フレンドリー利用者』を募集するまで
― 学生でもない教員でもない図書館の新しい利用者層の開拓 ―

板谷　茂
（学術情報サービスグループ　利用サービス企画主担当）
（利用者サービスグループ　副課長）

1．まえがき

広島大学は、社会への貢献を重視し、教育と研究に並ぶ第三の柱として社会貢献を位置づけ、社会連携活動を推進することを表明しています。このことを受けて、広島大学図書館では、平成17年1月末、地域の方々を対象とした図書館フレンドリー利用者の募集を開始しました。この紙面を借りて、担当者の一人として制度設計にいたった経緯などを説明したいと思います。これは地域の方々に図書館一般利用者として、従来から行っている本の貸出サービスだけでなく、それ以上のサービス提供を目指したものです。このサービスは、図書館が行う『社会貢献』、それを見える形としたものです。広島大学図書館が有する知的資産・人的資産の社会的利活用を推進するために目指したものは、「一般利用者の方にも学生と同様なサービスを提供しよう！」でした。



一方で、国立大学は平成16年度から独立行政法人化され、広島大学は国立大学法人広島大学となりました。活動資金も従来は国費として配分されていたものが運営費交付金として交付される形にかわり、また交付金額も年々減額されています。図書館運営上の事情で経費は切り詰めなければならない。しかし図書館としては、新しいサービスを提供したい。という相反することへの一つの解決策として、広島大学図書館では、図書館活動に関心をお持ちの方、理解してくださる方々に寄付金「図書館活動助成金」のお願いをすることを開始しました。一定金額以上を寄付していただいた方のうちで希望される方に新しいサービスを受けることのできる広島大学図書館フレンドリー利用証をお渡ししています。

詳細は、図書館HPで説明していますので、ぜひ御覧ください。

（http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/friendly_annai/pamphlet.html）

2．広島大学図書館フレンドリー利用者へのサービス内容

「一般利用者」と「フレンドリー利用者」で受けることのできるサービスは、概ね次のとおりです。

「一般利用者」……閲覧室の利用、図書の貸出（冊数８冊、貸出期間２週間）。

「フレンドリー利用者」……上記のほか、図書貸出期間の延長、貸出中図書の予約、図書の購入リクエスト、他図書館の資料利用申込み、個人閲覧室及びグループ閲覧室等の利用（中央図書館では地下書庫への入室）など

3．制度化するまでの経緯

図書館では、年度計画で立案した目標それぞれの達成をめざし、プロジェクトチームを組んで対応にあたっています。このフレンドリー利用者サービス制度は、社会連携活動推進ワーキングとして学術情報マネジメント課長をリーダとする計４名が命を受け、この難題に立ち向かったものです。その経緯について概要を簡単に説明したいと思います。

（１）ワーキングの目標設定（16年４月）

・地域社会へ貢献できる内容（図書館友の会のような組織）であること。

・可能ならば中四国地区国立大学図書館（以下「地区図書館」という）相互で連携協力する体制（友の会員が地区図書館訪問利用時に入会した図書館と同じサービスの提供を受けることができることなど）を構築すること。

（２）ワーキング作業中に起こった数々の難問

（16年７～10月頃、検討初期）

・関係部署との調整並びに学内トップの合意を得ること。

・地区図書館相互の共通認識を醸成すること。

・「図書館友の会」事務局組織を図書館の外に置くか、内に置くか。

・「図書館友の会」運営経費の徴収。会費制とするか。利用証発行経費のみとするか。その他経費についても実費徴収するか。

・広島大学図書館が考える趣旨を地区図書館に説明するが、なかなか理解が得られない。

（10～11月頃、検討中期）

・「図書館友の会」事務局は、図書館事務部内に置くこととする。

・「図書館友の会」運営経費は、会費ではなく、利用証発行経費を含めた実費相当額5,000円を寄付金として受け入れることとする。

・運用を開始した時には、「図書館友の会」組織の世話をワーキンググループで行うわけに行かない。どの主担当（旧称の係に相当）が行うのか。窓口となる実務的な責任母体が必要。

（注意）

この段階で私の所属する主担当が世話をすることが決まり、ここで初めてワーキンググループに参加しました。

・ワーキンググループメンバーより館内職員へ制度説明会を実施した。

・10月下旬、「名古屋大学図書館が『図書館友の会』を設立、募集を開始した。」との情報が入る。全国に先駆けて制度化することを目指していた関係者には衝撃が走った。

・11月中旬～下旬、大学理事のメンバーによる最終的な委員会の２回にわたる審議で、「再検討」の判断が下り、やり直しとなる。

（12月～17年１月頃、検討後期）

・制度の再構築

『図書館友の会組織は作らない。図書館活動資金の寄付を地域住民に求める。一定金額以上の寄付申し出者のうち、希望する人に図書館特別利用券（利用期限付き）をプレゼントする。』この新しい考え方で上記委員会の了承を得ることができた。

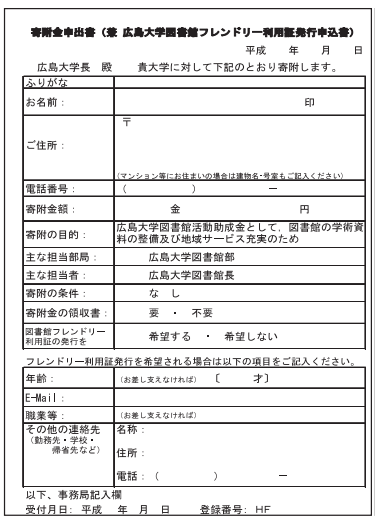
・寄付金の受入は5,000円以上とし、10,000円以上の寄付者には図書館特別利用券交付の希望を聞くこととした。
・図書館特別利用券の名称を「広島大学図書館フレンドリー利用証」とした。
・職員へ新制度説明会を実施、「カウンターでの応対マニュアル」及び「Q&A」を作成した。
・規則の一部改正など関係文書類の作成、委員会の承認、広報準備など最終準備を行った。
　市の教育委員会、市立図書館等へ制度説明に出向く。プレスリリースを行う。従来の一般利用者にダイレクトメールで案内を行なう。など

4．制度の運用開始

こうした過程を経て、平成17年１月末、『広島大学図書館フレンドリー利用者』　制度の運用を開始し、利用申込者は７月末現在で51名です。
利用者が増えることすなわち、地元の東広島市や広島市民の方をはじめとする地域社会の皆様方の生涯学習の場として、また、学術の中核的施設として役割を果たしている（必要とされている）と実感できるからです。広島大学図書館は、この制度の利用者が増えることを願っています。

5．制度の評価

社会貢献を目的とするフレンドリー利用者という制度は、図書館が地域社会の方々へ提案したサービスです。この制度が地域社会に評価され、はじめて社会に貢献したといえます。地域社会の需要があるのか、ないのか。また、加入した人たちが利用証の有効期限の切れる翌年以降、再加入するのか。しないのか。需要があれば加入者が増え、評価されればリピーターが増えるはずなので、この二つが実質的な評価基準になると考えています。制度運用の開始２年目には、ある程度の判断ができそうです。


寄附金申出書（兼 広島大学図書館フレンドリー利用証発行申込書）

平成　年　月　日

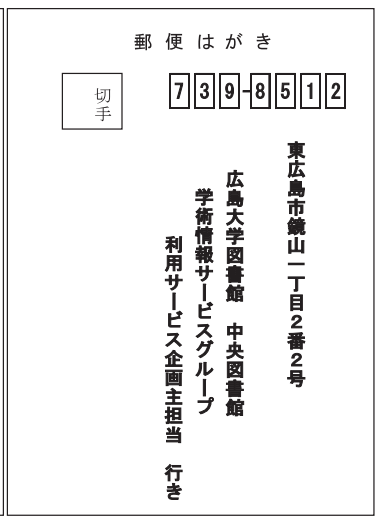
広島大学長　殿　　貴大学に対して下記のとおり寄附します。

ふりがな	
お名前：	印
ご住所：	〒 （マンション等にお住まいの場合は建物名・号室もご記入ください）
電話番号：	（　　）　－
寄附金額：	金　　円
寄附の目的：	広島大学図書館活動助成金として、図書館の学術資料の整備及び地域サービス充実のため
主な担当部局：	広島大学図書館部
主な担当者：	広島大学図書館長
寄附の条件：	な　し
寄附金の領収書：	要　・　不要
図書館フレンドリー利用証の発行を	希望する　・　希望しない

フレンドリー利用証発行を希望される場合は以下の項目をご記入ください。

年齢：	（お差し支えなければ）〔　　才〕
E-Mail：	
職業等：	（お差し支えなければ）
その他の連絡先（勤務先・学校・帰省先など）	名称： 住所： 電話：（　　）　－

以下、事務局記入欄
受付月日：平成　年　月　日　　登録番号：HF

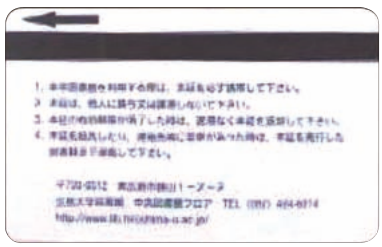

郵便はがき

切手

739-8512

東広島市鏡山一丁目２番２号

広島大学図書館　中央図書館
学術情報サービスグループ
利用サービス企画主担当　行き



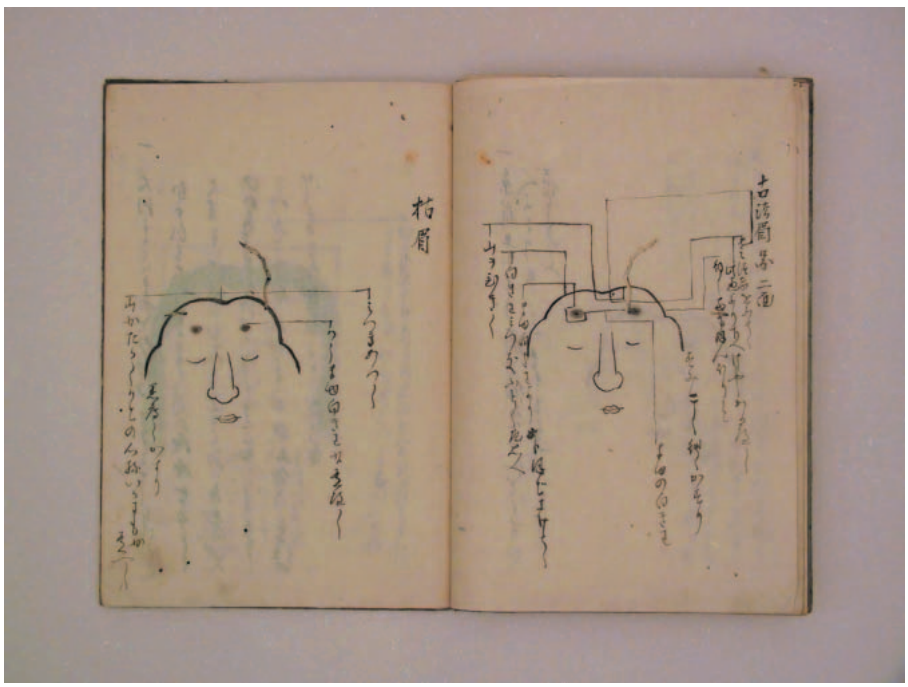
始動　研究開発室

藤川　功和
（研究開発室　助手）

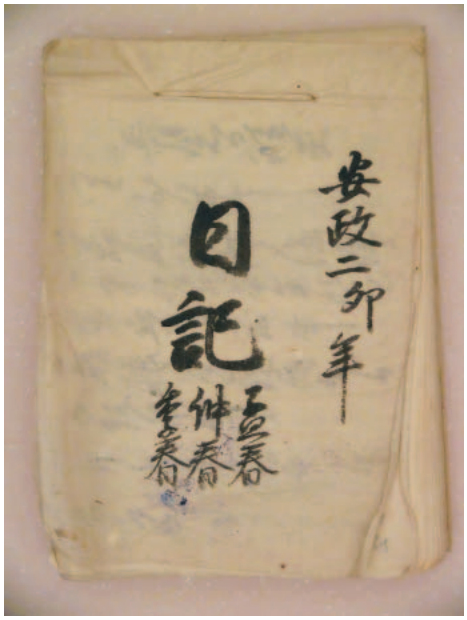
平成十七年四月一日より、中央図書館内に研究開発室が新設された。人員は、助手一名、つまり私一人である。その私に課せられた主な業務は、以下の如くである。

①特別集書（貴重書室・和装資料室収蔵本）の整理並びに目録作成
②図書館主催の諸行事のバックアップ
③図書館職員への国文学、歴史学等の専門知識の伝授

①に関して、本年度は今中文庫を対象とし、四月下旬より教育学研究科の中山富廣先生の全面的なご協力のもと、カード調査及びデーター入力を進めている。今中文庫は、広島大学名誉教授故今中次麿博士旧蔵の約八百点からなる資料群である。文庫には、上級藩士の諸役勤務心得や、藩主浅野家の慶弔行事の記録がみえる他、礼法や兵学、さらに文芸関係の和装本もかなりの点数を数える。中には、眉の整え方などを記した『化粧眉作事』【写真①】の如く、日常生活においてもある程度活用されたと思しい文献もみえ、バラエティに富んだ内容となっている。圧巻は、広島藩年寄今中相親が、文化四年（一八〇七）から死去の前年にあたる安政三年（一八五六）まで、五十年に渡って書き記した直筆の『今中大学日記』【写真②】【写真③】であり、今後、近世後期の広島藩政史を研究する上で必見の史料となるであろう。目録には、これら史料群の全てを（一部はカラー写真解説付きで）網羅することとし、（順調に行けば）来年の四月には『今中文庫目録』出来の運びである。



【写真①】『仮粧眉作事』より　　眉の整え方について絵入りで説明がなされている。



【写真②】『今中大学日記』安政二年記

【写真③】『今中大学日記』が収められている箱

②については、手始めに、七月一日にライブラリーホールで開催予定のLibrary Navigator Series （ライブラリーナビゲーターシリーズ）②「お伽草子を　聴く、観る、読む―広島大学図書館所蔵の貴重書をめぐって―」のプログラムや配布冊子作成などに関わっている。今回は、先頃図書館長に就任された位藤邦生文学研究科教授にご講演をいただくことになっている。

③に関しては、当面、①と連動させる形で、図書館員で構成する特殊コレクション整備ワーキンググループ内に、資料調査のノウハウをメールマガジンや配付資料を通して、発信する。今後、資料調査に関する基礎知識を蓄えたメンバーには、目録作成にも参加していただく予定である。さらに、将来的には、各部局とも連携を図りつつ、現代において求められている、高度かつ多様な専門知識を身につけた図書館員の育成を推し進めていく。

以上が、研究開発室の本年度及び将来に渡る活動内容の概略である。まだ着任して二ヶ月余りしか経っていないが、図書館員各位の多岐に渡るご助力のお陰をもって、仕事も軌道に乗り始め（たように私には思われ）、（個人的には、たいそう）充実した日々を送っている。今後は、この個人的な充実感の発露である「書物と向き合うよろこび」を、図書館内ひいては大学全体に広められたらと、大それたことを夢想している。ともあれ、まずは、当面の仕事に、そして今、私の目の前にある今中文庫の一冊の書物に真摯に対峙してゆきたい。

学内の中心にあって、まるで別天地の如く閑かな図書館の片隅にある研究開発室の中で、独りそのように考えている。

〔追記〕

脱稿後、Library Navigator Series （ライブラリーナビゲーターシリーズ）②「お伽草子を　聴く、観る、読む―広島大学図書館所蔵の貴重書をめぐって―」が無事開催された。当日会場は、老若男女によって大入り満員札止めになったことを申し添えておく。

広島大学図書館教員著作寄贈制度と広島大学フェニックス文庫

諸富　秀人
（学術情報マネジメントグループ　副課長）

1．はじめに

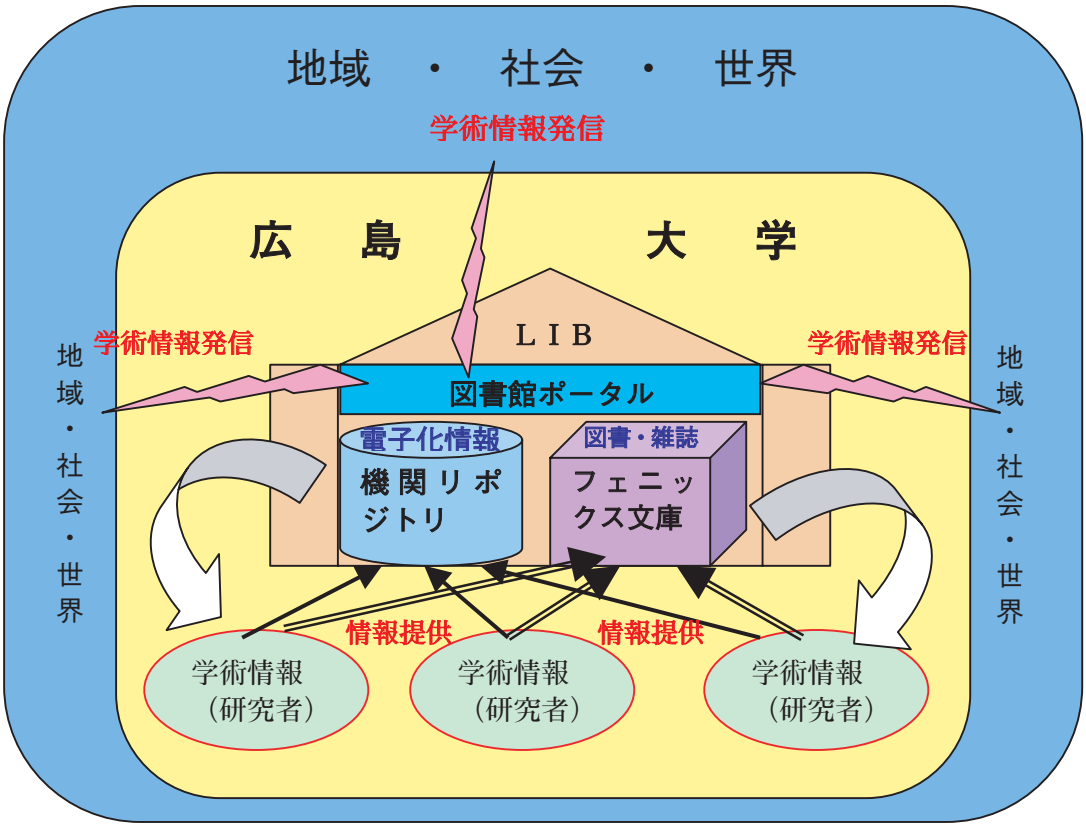
平成14年３月の科学技術・学術審議会の報告「学術情報の流通基盤の充実について」で、大学などが生産する学術情報を国民に直接還元するための体系的な情報発信体制を整備すること、また、大学などからの情報発信機能の整備に関して、総合的な企画・立案を行なう機能及び発信される情報のポータル機能（窓口）を大学図書館が担うことが求められています。広島大学においても、学内外への情報発信の窓口（ポータル）を図書館が担うための体制整備が緊急の課題となっています。

2．大学等が生産する学術情報

大学などで生産される学術情報には、研究の果実としての研究成果情報と、今、まさに研究中のいわゆる“ｏｎ－ｇｏｉｎｇ”情報があります。研究成果情報としては、原著論文、雑誌掲載論文、紀要掲載論文、学位論文等多様なものがあります。一方、研究者が最も高い関心を持つ“ｏｎ－ｇｏｉｎｇ”情報は、研究の成否に関わる問題でもあり、インセンティブの問題もさることながら、その収集・発信は現時点では非常に困難と言わざるをえません。

3．学術情報の収集・発信体制の整備

これまでは、学術情報の生産者である研究者などが個別に学術情報を発信していて大学全体としての組織的な発信体制はありませんでしたが、データの作成、保存、発信に係る諸プロセスを電子化し、一元的に収集・管理・発信する「機関リポジトリ」という新しいシステムが構想され、本学でも平成17年度中の構築に向けて検討しているところです。図書館は、この「機関リポジトリ」の担い手としても大いに期待されています。



一方、電子化されない図書、雑誌などのアナログ情報についても、一元的且つ網羅的な収集・保存・提供（発信）がなされなければなりません。このことは、大学の説明責任・情報公開の観点から、法人化後特に図書館に期待される重要な機能となっています。広島大学図書館が広島大学学術情報のアーカイバー及び学術情報発信のポータルとしての役割を担ううえで、全学的な共通理解に基づく効率的且つ効果的な収集・発信体制などの制度作りが不可欠です。この度、図書館ではそれらの制度の一環として、次の二つの制度を創設しました。

①「広島大学図書館教員著作寄贈制度」

本制度は、本学教員が学内における教育・研究活動の成果として刊行する出版物を図書館に寄贈していただく制度で、広島大学学術情報アーカイブ形成の一端を担うものです。先般、第１３回教育研究評議会でご説明し、全学的なご協力をお願いしたところですが、本学における学術情報基盤の整備及び学術情報の発信に供するため、刊行された出版物の１部を図書館へ送付していただきます。対象となる出版物は、学術図書、研究紀要等逐次刊行物及び視聴覚資料などです。将来は、国立国会図書館の納本制度にならい、「広島大学納本制度」に発展させたいと考えています。

②「広島大学フェニックス文庫」

「広島大学図書館教員著作寄贈制度」の受け皿として、同制度により寄贈された資料を保存・展示する「広島大学フェニックス文庫」を制度創設と同時に設置しました。図書館では、寄贈いただいた出版物を適切に管理・保存し、本学における学術研究の記録及び知的財産として後世に伝えるよう努めます。また、ＯＰＡＣなどのデータベースに登録し、学内外の利用に供すとともに図書館ホームページに掲載・広報します。

４．おわりに

図書館では、広島大学で生産される学術情報のうち、電子化された情報を「**機関リポジトリ**」が、また、電子化されない情報を「**フェニックス文庫**」がそれぞれ分担して一元的網羅的に収集・保存・発信する体制を明確に確立したいと考えています。このことにより、広島大学から世界への効率的・効果的な情報発信、学術研究活動の社会への成果還元、研究者及びブランドとしての広島大学への評価及び認知度の向上などがダイナミックに進展します。本制度及び文庫は、世界トップクラスの総合研究大学を目指す広島大学にとっても、学内研究者自身にとっても非常に大きな貢献をするものと信じます。

広島大学図書館教員著作寄贈制度による出版物寄贈のお願い

広島大学図書館は、学内研究者の皆様の刊行する出版物を広く収集し、広島大学における教育・研究活動に伴う成果情報を、国内はもとより、世界中に知らせるための「目録」を作成しております。また、図書館は、収集した出版物を「広島大学フェニックス文庫」として多くの方々に利用していただくとともに、後世に残し伝えていく役割を担っています。広島大学図書館教員著作寄贈制度に御理解と御協力を頂き、次の出版物を刊行されましたら、その１部を図書館にご送付くださるようお願いいたします。

寄贈をお願いする出版物

（１）学術図書：単独著作、共著、編集を問いません。
（２）研究紀要等逐次刊行物
（３）視聴覚資料
（４）その他の学術的資料

送付先：中央図書館学術情報基盤整備グループ図書コレクション主担当
電話：082-424-6209　　e-mail：tosyo-kiban-tosho@office.hiroshima-u.ac.jp

海外研修報告集

北欧における平和学関連図書館の調査報告

尾崎　文代（学術情報サービスグループ　参考調査主担当）
和田　由季（利用者サービスグループ　中央図書館フロア主担当）

はじめに

平成16年度の広島大学後援会国際交流助成事業として、11月27日より10日間の日程で北欧３カ国の平和科学研究所図書室，大学図書館および公共図書館を、尾崎と和田が訪問してきました。訪問の目的は、被爆地広島の大学図書館として平和学関連資料の収集と電子化を行うにあたり、国際平和の科学的研究を行っている研究所図書室において調査研修を行うことにあり、本学平和科学研究センターの篠田助手も同行し、研究者の見地から平和学コレクション構築の助言をいただきました。

ここでは、今回訪問した研究所図書室，図書館の概要を、訪問順に報告します。

訪問地位置図

日　程

訪問先と日程は次のとおりです（日付，時刻はいずれも現地時間）。

2004年

11月27日（土）　11:55 関西国際空港発
　　17:10 オスロ空港着
11月29日（月）　AM　PRIO訪問
　　16:10 ストックホルム空港着
11月30日（火）　SIPRI訪問
12月１日（水）　AM　ストックホルム大学図書館訪問
　　PM　同アジア図書館訪問、
　　ストックホルム市立図書館訪問
12月２日（木）　14:50 マルメ駅着
12月３日（金）　AM　ルンド大学日本語学科訪問
　　PM　ルンド大学アジア図書館訪問、
　　同本館訪問
12月４日（土）　デンマーク王立図書館訪問
12月５日（日）　12:30 デンマーク空港発
12月６日（月）　9:50 関西国際空港着

オスロ国際平和研究所（PRIO / ノルウェー）

International Peace Research Institute Oslo

http://www.prio.no

1959年設立の国立研究機関。

凍てつくオスロ市内をトラムに乗って約20分、Fuglehauggataという閑静な住宅街にあるPRIOに到着。３階建ての２階フロアにある図書室でHead of LibrarianのOdvar Leineさんにお話を伺いました。ライブラリアンは常勤１名、パートタイム１名。

写真1　左からOdvarさん、尾崎、篠田助手

ワンフロアだけで意外に小さい図書室でしたが、平和と紛争に関する基本的資料が収集されており、新着図書はPRIOの研究者に書評を依頼するために寄贈されたものが多いということで、研究機関としての権威の大きさを感じました。

ライブラリアンは、研究者の指定する約300のジャーナルについてのオンデマンドコンテンツサービスや、定期的に平和学に関するアーカイブを入手し蓄積する作業も行っています。また、図書室はノルウェー国内外を問わず広く一般に公開されており、昨今はILLの貸出件数が飛躍的に伸びているということです。

ストックホルム国際平和研究所（SIPRI / スウェーデン）

Stockholm International Peace Research Institute
http://www.sipri.se/

1964年設立の国際平和に関する研究機関。「SIPRI Yearbook」を公刊。冷戦時代の核軍縮交渉にデータを提供するなど、軍縮問題における世界的権威。

前日午後にストックホルムへ空路移動。当日バス停を間違えて雪の中を迷った末に到着した研究所は、ストックホルム市郊外Solnaの小高い丘にある瀟洒な建物でした。２階フロア全てが図書室で、資料数は43,000点。お話は、Head of librarianのNenne Bodellさんに伺いました。ライブラリアンは４名。

写真２　左からNenneさん、尾崎、和田

各プロジェクトに沿った専門的分野が収集対象。資料交換を全世界の約400機関と行い、図書，雑誌の他、各国のオフィシャルレポートやモノグラフ類が揃っています。図書室は一般には非公開ですが、LIBRIS（スウェーデン総合目録）等を通じたILLには応じています。

資料をカタログ化してローカルデータベースを構築する業務は私たち大学図書館員と同様ですが、様々な検索を想定して独自にキーワードを付与したり、電子的資料へのリンク付けを行ったりしていることが特徴的でした。ライブラリアンは各プロジェクトに参加しており、国際機関のウェブサイトをモニターして定期的にレポート類をダウンロードし、新聞，雑誌記事をアーカイブ化して研究者に供し、新聞やニュースソースからコンテンツを収集し、紛争問題データベースFIRST（http://first.sipri.org/）の一部を構築する業務も担当するなど、研究者と緊密な関係にあるといえます。

ライブラリアン達とはお茶とクリスマスシーズン限定のパン（ルシアパン）をいただきながら、勤務待遇や図書館の裏話からスウェーデンでの暮らしまでいろいろと伺い、楽しい一時を過ごしました。

また、この機会にFIRST担当者と日本語版構築による提携協議をも行ってきました。

ストックホルム大学図書館（スウェーデン）

Stockholms universitetsbiblotek
http://www.sub.su.se/

スウェーデンの総合大学として社会人を多く受入れている大規模な大学。学生数３万5000人。

翌日もストックホルムの図書館を訪問しました。地下鉄を乗り継いでストックホルム市郊外のキャンパスへ。図書館はカフェなどアメニティ施設の集まる建物群の一角にあり、豪華客船の形に見たてたというアーティスティックなデザインでした。

写真３　客船を模した館内

館内は多くの学生が利用しており、大変活気がありました。magasine（書庫）資料の貸出は、OPACからオーダーし一週間取り置きしてその間貸出がなかったら書庫に戻す、というシステムをとっており、その棚がエントランス近くに並んでいました。後日見学したルンド大学図書館でも同様でしたので、スウェーデンでは一般的なサービス形式なのだと思います。

午後からは、アジア圏の資料約8,500点を収集する、分館のアジア図書館を見学しました。司書の倉増信子さんからは、図書館の概要のほか、医療費や教育費が全て無料である高福祉国家スウェーデンの学生事情や生活事情なども伺いました。

ストックホルム市立図書館(スウェーデン)

Stockholms stadsbibliotek

ストックホルム市立図書館国際図書館

Internationally biblioteket

http://www.ssb.stockholm.se/

ストックホルム大学からバスに乗って、ストックホルム市中心部へ移動。遅い昼食の後外へ出ると、まだ３時なのにもう薄暗くなっていました。

まず、本館に隣接する国際図書館を司書の白井静子さんに案内していただきました。100以上の言語の資料を収集し、図書20万冊以上，新聞150紙を所蔵しています。これらの言語を分担整理しているのはわずか司書数人だそうで、たいへん驚きました。

続いて本館（Apslund-Huset）へ。ここは、グンナー・アプスルンドによって設計され、1927年に開館した美しい円形の開架図書室で有名な建物です。

写真４　円形開架図書室

ルンド大学日本語科（スウェーデン）

Lunds universitet　http://www.lu.se/

行程中日にルンド近接のマルメに鉄道で移動。スカンジナビア半島南端に位置するこの地域（スコーネ地方）は、さすがに雪も消えています。翌朝、マルメから鉄道でルンドへ。

最初に、今回のルンド大学訪問に際してお世話になった鈴村ルンドストロム和代先生の所属される日本語科の教室を訪ね、学生との交流会に参加しました。日本語科は学生数30名余り。近年、アニメなどから日本に興味を持つ学生が増え、北欧企業の日本支社に就職する学生もいるそうです。

学生たちとの短い交流の中で最も印象的だったのは、彼ら全てが広島の原子爆弾のことを勉強していて、広島に生まれ育った私たちの感じる平和のイメージについて熱心に耳を傾けてくれたことでした。

写真５　ルンド大学日本語科にて

ルンド大学図書館（スウェーデン）

Lunds universitets bibliotek　http://www.lub.lu.se/

ルンド大学図書館は1668年設立。1906年から現在の建物となる(本館)。蔵書数500万タイトル。98％が閉架。一般に公開されており、年間利用者数70万人、貸出冊数30万件。書架の総延長は約100km。

午後は、日本語科の属する学部のアジア図書館と本館を見学しました。

ルンド大学図書館の最大の特徴は、スウェー

デンに二館ある納本図書館の一館であることです（もう一館はストックホルムのスウェーデン王立図書館）。この納本制度では、印刷業者が印刷物を全て納本し、二館は分担収集ではなく全く同じ国内の印刷物をそれぞれ保管しています。新聞のチラシ，ポスター，パンフレット，何らかの会合の招待状までありとあらゆる印刷物が保管されているのには、とても驚きました。

館内見学後、17世紀の稀覯書のデジタル化作業について、マニュスクリプトの担当者より説明を受けました。主として神学書67冊2万頁の画像をデジタル化し、テキストも全て検索可能なデータベースとして構築されています。このデータベースでは、テキストの緻密な解題と高精細な美しい画像を見ることができます。

http://laurentius.lub.lu.se/

写真6　ルンド大学図書館本館

デンマーク王立図書館（デンマーク）

Det Kongelige bibliotek

http://www.densortediamant.dk/

最終日、国境の橋を渡ってデンマークの首都コペンハーゲンへ向かい、ブラック・ダイヤモンドの愛称で呼ばれるデンマーク王立図書館にも足を運んできました。

ここはデンマークの納本図書館であり、17世紀を再現した閲覧室など歴史を感じさせる旧館（1673年設立）と、シュミット、ハンマー＆ラッセン設計で1990年にオープンした現代北欧建築の最先端といえる新館とが融合した建造物でした。

写真7　デンマーク王立図書館

以上のように10日間で9つの図書館・室において見学，研修をしてきました。平和学研究所図書室では、これから平和学コレクションを拡充するための多くのヒントをいただきました。また、大学図書館，公共図書館では、北欧の教育制度，福祉制度を体感し、紛争のない世界を創造するための基盤について考えさせられました。

終わりに

広島大学図書館ではこの研修出張の成果を基に、平和学関連事業（被爆60周年記念事業）を計画，推進しています。このことについては、別の機会に報告できることと思います。

また、この報告の詳細版は『大学図書館研究』に掲載される予定です。

最後に、今回の研修の機会を与えていただいた広島大学後援会をはじめ関係各署の方々および、現地図書館で暖かく受け入れていただいた方々、広島大学図書館に感謝いたします。

米国における大学図書館運営及びサービス活動等に関する調査報告

鈴木　秀樹（学術情報サービス課長）
藤井　武志（学術情報基盤整備グループ　図書コレクション主担当）
寺見　俊昭（学術情報サービスグループ　相互利用主担当）

はじめに

平成16年度学長裁量経費により、図書館部鈴木学術情報サービス課長、藤井学術情報基盤整備グループ主査、寺見学術情報サービスグループ主査の３名が、2005年２月14日（月）から２月23日（水）まで米国図書館の調査・研修に行ってきました。

訪問先は、以下の４大学図書館１公共図書館です。

２月15日　Harvard University
２月16日　University of Massachusetts Amherst
２月18日　Cornell University
２月20日　Seattle Public Library
２月21日　University of Washington

調査テーマは以下に示す事項で、事前に質問票を作成し各機関（シアトル公共図書館を除く）にメールで送りました。国立大学が法人化された状況の中、今後の図書館運営と果たすべき役割を課題としました。

1. 運営・経営に関すること
2. 職員の採用・育成・養成・研修
3. 学術情報リテラシー教育
4. 学術機関リポジトリ
5. ＧＩＦ（グローバルILLフレームワーク）
6. 地域社会貢献活動のための施設利用

関西国際空港での出国審査では１人が荷物検査に引っかかり、デトロイト・メトロポリタン空港での入国審査では、全員が指紋を採られ、顔写真まで撮られて、9.11テロ以降の警戒態勢を実感しました。デトロイトからボストンまで国内線で移動し、ボストンのホテルにチェックイン。３部屋のはずが１部屋しか予約が入っていなくて慌てたが、何とか解決。みぞれ混じりの天候で、気温は摂氏０度前後。道路脇には雪が残っていました。

寺見　　鈴木　　藤井
Suzzallo-Allen Library (Univ.of Washington)

Harvard University

学内には97の図書館があり、各館は独立して機能しています。全館の蔵書冊数は1,300万冊。キャンパスへは自由に入れますが、各施設は一般開放されていません。訪問にあたっては、Harvard-Yenching Librarian のMs. Kuniko Yamada McVeyに通訳とご案内をしていただきました。

先ず、Harvard-Yenching Libraryの James K.M. Cheng館長よりお話を伺いました。

図書館長は公募によって選出されますが、その対象は米国内にとどまらずナショナルワイドに広報し募集します。運営にあたっては、透明

性の確保が重要と考えている、とのことです。

館長の任務は、主に予算と人事に関する事で、特に経営のための資金調達が重要な仕事です。資金調達には専門の職員がその運用・管理に当たっています。

職員の人事は、基本的には本人の希望・意思に基づきますが、それぞれの部署において責任と権限を委任できるような適材適所の人事配置を心がけているとのことです。

転出者がある場合は、その後任をまず学内から募り、次いで学外へ公募することになります。米国の大学図書館界では、大学間の異動が柔軟かつ広汎に行われている背景があるので、このようなシステムが可能となっています。館長ご自身も、カタロガーから出発し、複数の大学での勤務を経て現在に至っているとのことです。

Harvard-Yenching Libraryを案内していただいた後、メインライブラリーであるWidener Libraryを見学しました。外部の見学希望者があまりにも多く、現在では一般者の入館は禁止されています。Widener Libraryはタイタニック号事故により亡くなったWidener氏の遺族の寄附により建築された図書館ですが、館内にWidener氏の書斎を再現した部屋が設けられており、歴史を感じさせる空間でした。

その日は、ボストンからアムハーストまで、バスで約３時間かけて移動し、降車後、通りかかる学生に道を聞きながらロッジをようやく探しあてて宿泊となりました。

University of Massachusetts Amherst

ボストンから西140kmに位置する1863年開校の州立大学で、図書館の蔵書冊数は約280万冊。East Asian Studies LibrarianであるMs. Sharon H. Domierの案内でW.E.B. Du Bois Libraryを見学しました。Sharonさんには、その後のインタビューでの通訳もしていただきました。施設は28階建、元々図書館として建てられたものでないため、１フロアのスペースは狭く高層になっており、強度にも問題があるとのことでした。

館内各サービスフロアで対応するカウンター職員はほとんどが学生アルバイトです。

W.E.B. Du Bois Library

副館長のMs. Leslie Button、Ms. Ann Moore両女史と昼食を共にしながらお話を伺いました。館長の任務は主に運営にかかる外部との折衝（資金獲得も重要な任務）で、副館長は内部組織のとりまとめ、という切り分けがされています。副館長の役割は、それぞれサービス部門と資料収集部門に分担されています。

人事評価のため、各職員が年１回「Annual Report and valuation for Librarians」を作成しています。これは、まず所定の報告書に本人が記入し、Supervisorへ提出しコメントをもらいます。両者の考えが一致しない場合は協議しますが、合意に至らない場合は両者のコメントを併記して提出することになっています。

ILLシステムについて担当者から話を伺った後、文献伝送システムの現場を見学しました。近隣の５大学とで相互利用の協定が締結されており、所属学生は共通の利用ができます。文献伝送システムは、Arielで、使い易く問題なく使用されています。主要な大学図書館間の文献複写サービスは、電子的送信が一般的になりつつありますが、小規模図書館ではFAXに頼っているそうです。

再びバスで、アムハーストからボストンに移動し宿泊。翌日、ボストン空港から、ニューヨーク・ラガーディア空港を経由してニューヨーク州イサカへ。地方の小空港ですが、セキュリティチェックが非常に厳しかった。気温は零下20度。屋外では寒いと言うより痛い感じでした。

Cornell University

1865年創立で、ニューヨーク州イサカにメインキャンパスがあります。Kroch LibraryのJapanese BibliographerであるFrederic Kotas氏と小泉弥生さんに案内していただきました。

President Andrew W. D. White Library
(Olin Library内にある
コーネル大初代学長コレクションルーム)

Olin Libraryの狭隘化に対応するため隣接して建築されたKroch Libraryは、1992年に開館した新しい図書館で、設計も採光に配慮した構造になっています。正面入口を入ると直ぐ左手に喫茶室が設けられ、飲み物や軽食が販売されています。我々が到着した10時過ぎにはかなり多くの学生が利用していました。

Kroch Libraryは、アジア・コレクションと貴重書・写本のコレクションを蔵する図書館です。

まず、人事を担当する副館長にお話を伺いました。職員の育成については、各人がそれぞれのポストに責任を持ってもらうことが必要で、大学としてはそのためのトレーニングや研修の機会を設けています。その一つがコーネル大学の授業に無料で出席できるプログラムです。また、指導者育成のために全米各地で開催される様々なプログラムやコーネル大学が実施する一般職員対象の研修にも参加しています。こうした機会は、リーダーシップ養成とともに、図書館を一つのチームとして機能させるためにも必要と考えている、とのことです。人事異動は、空きポストに対し内外に公募して補充しています。図書館職員に必要な資質について伺うと、図書館学の他、特定の専門分野に関する知識を有すること、コンピュータ関係の知識があるこ

と、コミュニケーション力があること、などが挙げられました。その他、ポストによっては、指導力、様々な環境変化への対応能力、部下を説得し順応させる能力、学ぶことへの情熱等が必要な資質として挙げられました。

ILL担当者との面談及び実務見学では、事前にGIFに関する質問を用意したところ、新規に参加することにしたとのことで、今回の成果の一つとなりました。tifファイルで送られてきた依頼文献は、pdfファイルに変換されてサーバーに蓄積されると同時に依頼者にメールで連絡が届き、依頼者自らがサーバーから取り出すようになっており、かなり自動化が進んでいるように見受けられました。

機関リポジトリは、３～４年前から構築しているが、これは学内に政治力を持つ人物がMITのDSpaceに興味を示したことがきっかけだったそうです。運用面での図書館の役割は、テクニカルな部分をサポートすることで、登録文献を増やすためには、特にユーザ・インターフェースが大事､とのアドバイスをいただきました。他大学との差異としては、出版プログラムとの連携を推進していることを挙げられました。広島大学図書館の事業計画の一つが機関リポジトリなので、非常に参考になる話を伺うことができました。

University of Washington

メインキャンパスは、ワシントン州シアトル市内中心部よりやや北に位置する州立大学で、図書館は、500万冊の図書、500万点のマイクロ資料、５万タイトルの雑誌を所蔵しています。今回の訪問にあたっては、East Asia LibraryのJapanese Studies LibrarianであるMs. Keiko Yokota-Carterに案内をしていただき、Suzzallo-Allen Libraryを見学した後、お話を伺いました。

まず、館長の役割として、図書館の予算獲得があります。これには、大学内での配分にかかる役割と企業や個人からの寄附依頼活動があります。人事については副館長が担っています。職員の採用はそのポストに対して行われ、日本のような内部の定期的異動はありません。各ポストの業務は細部に渡って明文化されており、役割と権限が明確になっています。雇用する職員はLibrarian とLibrary Technician等のstaffとに分かれています。

Librarianは、修士以上の学歴が必須で、Subject Librarianとして教員の研究をサポートします。また、研究分野毎に資料購入費が配分され、選書と購入の決定権は担当のLibrarianが持っています。（例えば、日本関係資料は Keiko Yokota-Carterさんが担当しており、その年間予算は約2000万円だそうです。これ以外に、政府配分予算や個人Donationの利子、あるいは学内競争的資金で獲得する予算もあります。）

Library Technicianは、発注・受入・装備等の実務を担当します。昨今の予算逼迫により、ポストに空きができても、補充せずwork sharingでカバーする場合もあります。

最後に情報リテラシー教育について、担当のJohn Holmes氏から、オンライン・チュートリアル・プログラム（Research101）の説明を伺いました。Research101は、６つのユニットから成るインタラクティブ・オンライン・チュートリアルで、情報検索・収集のスキル修得を目的とし、学生を対象とした入門編的な内容になっています。例えば、最初のユニット『The Basics』では「インターネットの基本」「学術情報とその他の情報の違い」等を学ぶことを目的としています。

このプログラムは学内各教職員に提供しており、その骨組みを使って当該分野の主題に沿った内容に変更し、それぞれの分野での学習に活用することができます。学習内容を変えても、同じ骨組み（構成や使い方）であることにより、使い易い効率的な学習が可能となります。また、ダウンロードして他の図書館がカスタマイズし利用することも可能です。因みにURLは次のとおりです。

http://www.lib.washington.edu/uwill/research101/

印象に残ったのはパソコンが数百台並んだスペースで、利用者が周囲に迷惑をかけることなく静かに利用していたことです。

Seattle Public Library

Seattle Public Libraryは市内のダウンタウンに位置する公共図書館で11階建て、日曜日は13時からの開館でした。14時からのLibrary Tourへの参加を申込み、約40分程度で館内を見学しました。我々の参加したグループは10数名でした。以下、気づいた点を列記します。

・各フロアに募金箱が設けられている。
（１ドル札が多かった。）
・Library Tourのガイド役はボランティアが担当している。

・正面入口（外側）に設けられた返却ポストに返却された資料はそのまま搬送機に乗って、自動的に館内のカウンター内に送られるシステムになっている。
・６～９階は「Books Spiral」と称され、やや傾斜した床になっている。これはブックトラックがエレベータ等を使用せず、そのまま上下階に移動できるようにするためであり、また、図書の配架もスムーズな連続性を保つことができる、とのことです。
・日本の公共図書館と比較して、館内各所にカウンターあるいは案内のための窓口が数多く設けられており、利用者への案内に配慮している印象があった。
・「Friends of The Seattle Public Library」という制度があり、公共図書館でも寄附やボランティアによる協力依頼活動を推進している。

さいごに

今回の貴重かつ有意義な機会をいただいたことについて、牟田学長、吉里図書館長（当時）ほか関係者の皆様方に感謝いたします。

また今回訪問した大学で、事前の連絡や担当者とのアポイントメント等の調整から当日の案内・通訳等、非常にご丁寧かつご親切に対応いただいた皆様（本文中でご紹介した皆様）に感謝申し上げます。

中華人民共和国（北京）の大学図書館を訪問して

橘　美紀子（学術情報サービスグループ　利用サービス企画主担当）
萱野　靖子（学術情報基盤整備グループ　メタデータ形成主担当）

平成16年度学長裁量経費による『広島大学図書館のグローバル化のための国内外大学調査研究』の一つとして、中華人民共和国の大学図書館を調査することになり、2005年２月28日より３月５日まで北京へ出張しました。

行き先が北京となったのは理由があります。広島大学は初の海外教育研究拠点として、2002年10月より北京市の首都師範大学国際文化学院の中に北京研究センターを設置しています。この北京研究センターを拠点に現地の大学図書館を訪問することができればと考え、首都師範大学図書館、北京大学図書館、清華大学図書館を訪問することになりました。

首都師範大学図書館

情報リテラシー教育

訪問目的の一つは、図書館利用者に行っている利用案内や講習会など、情報リテラシー教育についての調査です。訪問した各図書館とも大変積極的に講習会を行っていることがわかりました。新入生向けのオリエンテーションを始め、データベースや電子ジャーナルなどの講習会、大学によっては単位が取得できる講義まで行っていました。

面白いと思ったのはユニークな講習会の名称です。例えば、首都師範大学は「百分講座」という名称で、100分の講習時間と100％の情熱を意味しているそうです。北京大学は「一小時講座」、清華大学は「“了解図書館”専題培訓講座」と名付けられていました。ある図書館では、シーズンごとに週２～３回、おもに夜７時から講習会が行なわれており、スケジュール表には担当者の名前まで記載されています。図書館職員の勤務については大学により残業したり、一日が8時間になるよう午前・午後・夜を交替で勤務したりと工夫されているようでした。

それから、訪問中によく出てきた言葉に「学科館員」という用語があります。これは図書館と学科教員との連絡や調整を行う図書館員のことで、サブジェクト・ライブラリアンともいわれています。「学科館員」の主な仕事は、担当する学科について教員と連絡をとり、講習会の実施、新しいサービスや情報・資料の紹介、レファレンス、図書館資料やサービスに関する意見を求めることなどのほかに、図書館での講習会の講師やレファレンスも担当されているようでした。出発前に中国では電子化が相当進んでいるという話を伺い、実際訪問先でも様々なデータベースの紹介をしていただきましたが、このサブジェクト・ライブラリアン制度が導入さ

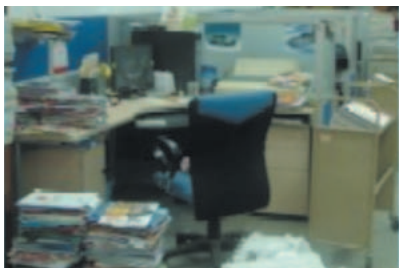
萱野、橘、郭副研究館員(清華大学図書館)

れているのを知ったことは、大きな発見でした。

目録登録業務

中国の図書館のHPを訪問すると、よく目にする名前に「CALIS」があります。当館の業務システムと同じ綴りなのでずっと「キャリス」と読んでいましたが、中国では「カリス」と呼んでいます。正式名称は「中国高等教育文献保障系統（CALIS：China Academic Library & Information System)」。中国国内約500大学が参加するNACSIS-CATとILLにあたるシステムで、所蔵館だけでなくコピー、相互貸借の可否の状況も表示され、これを元に図書館を通してILLの申し込みも可能です。管理センターは北京大学図書館にあり、国立情報学研究所とも連絡があります。CALISに参加している図書館は、私たちがNACSIS-CAT、ILLを利用するように、CALISを利用しています。

目録システムはCALIS参加館で利用可能なシステムがいくつかあり、今回訪問した図書館はその内の1つを利用していましたが、膨大な資料が所狭しと置かれた中、CALISのマニュアルをもとに登録する様子をみると同じ図書館なんだなと実感がわいてきます。



整理待ちの資料（首都師範大学図書館）

それから、今回訪問した図書館は３館とも、中国でも先進的な電子図書館で、電子資料もかなり収集していました。あちらでは、大きく中国語の資料と西洋語の資料とにわけていて、西洋語のデータベースについては目録を作成してOPACで検索できるようにしているようです。

パソコン環境

パソコンは、Windows2000でOfficeを使用し、日本とあまり変わらない環境と思われます。利用者用のパソコンにもOfficeがインストールされていて、wordやpowerpointが使用可能になっているほか、全て利用者用パソコンルームがあり、端末も多数設置されていました。管理用パソコンで管理するとともに、カードや利用申請書で利用者を把握しています。

ヘッドホンをつけてパソコンの画面を見つめる学生など、パソコンルームはかなりの利用者がありました。もちろんこれに関連してデータベースの使い方などの照会も増加しているそうですが、ある図書館はチャットを利用してレファレンスを行っていて、カウンターと同様に当番制で常駐しているので、これなら席を立たなくてもいつでもやり取りできるので便利だなと思いました。

パソコンルーム（北京大学図書館）

終わりに

今回、海外図書館研修の行き先に中国が入っている背景には、当大学の北京研究センターが首都師範大学に設置されていて拠点とするには非常に便利であるという点もありました。設立当時だったと記憶しているのですが、北京研究センター長の佐藤利行先生と李均洋先生が来館された折に当館のご案内をした時には、中国へ研修に行くなどとは夢にも思いませんでしたが、この中国研修では両先生に大変お世話になりました。また、広島大学国際部と北京研究センターにも、通訳および各大学図書館との仲介の労をとっていただき、中国語が碌に話せないにも拘らず無事に研修を終えることができたこと感謝いたします。

*中国高等教育文献保障系統（CALIS）の
ホームページ　<http://www.calis.edu.cn/>

国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC)ボストン大会参加と近郊図書館訪問

庄　ゆかり
（広島エリアグループ　医学分館フロアサービス主担当）

はじめに

2005年4/10-19学長裁量経費により国際図書館コンソーシアム連合（ICOLC）のボストン大会へ参加し、その後近郊図書館を訪問した。ICOLC大会の報告書は「大学図書館研究」75号（2005）に掲載予定であり、図書館訪問については一部を7/15の広島大学図書館公開研修発表会で発表したので、ここでは要点のみ述べる。

1. ICOLCボストン大会

1.1. 概要

国際図書館コンソーシアム連合(ICOLC: International Coalition of Library Consortia)は、世界中の図書館コンソーシアムが共通の問題点について協議するために集まった非公式な団体である。年2回北米とヨーロッパで大会が行なわれ、主として電子的情報資源にかかわる諸問題について情報交換する。4/11-13に開催された2005年ボストン大会には、15カ国から123名が参加した。

大会は、各社・機関による製品紹介と質疑応答のGrill、各機関の事例報告と協議のPlenary、テーマ別分科会のSplit Sessionで構成され、開会・閉会時には規定・運営などについて協議するBusiness Sessionが行われる。

ICOLCボストン大会会場

1.2. Grill

1.2.1. SCOPUS

科学・技術・医学・社会科学分野14000誌以上のジャーナルを収録する、エルゼビア社の文献情報データベースSCOPUSの紹介と価格。

1.2.2. Google Scholar

学術文献専用無料サーチエンジンGoogle Scholarの解説と、図書資料用サーチエンジンGoogle Printの紹介。

1.2.3. American Psychological Association

APAのデータベースPsycInfo, PsycArticles, PsycCritique, PsycBooks, PsycEXTRAの紹介と価格。

1.2.4. Center for Research Libraries

CRLの紹介。レア資料中心の資料構成。2009年までに全資料の電子的提供を可能にする予定。

1.2.5. Digital Libraries and Content Management: Bepress

機関リポジトリ支援ツールDegital Commonsと検索ツールResearchNowの紹介。Digital Commonsは研究者に対して文書自動PDF化・版管理・コンテンツ登録などを支援、Research NowはDigitalCommonsを発展させたもので、コンテンツを拡大（IR＋BePress社の出版物）し、検索支援機能を充実。

1.2.6. CONTENTdm

CONTENTdmは、デジタルコンテンツの管理システム。XMLexport,Z39.50,OAIを実装し、WorldCatにハーベストされる。

1.2.7. WorldCat Collection Analysis Service: OCLC

OCLC利用館蔵書の重複度合をオンラインで分析するサービスの紹介。資料選定に有用。

1.2.8. Monograph Analysis - Library Dynamics' Spectra CRC

図書館蔵書分析ツールSpectraCRCの紹介。複数の機関と蔵書データ・利用について館相互のビジュアル分析が可能。

1.3. Plenary

1.3.1. 検索エンジンの比較 Web of Science, Scopus, Google Scholar

Yale大学のKathleen Bauer氏より、Google Scholar・Web of Science・Scopusのコンテンツ収録範囲、検索機能などについて、Yale大学における比較調査結果を報告。

1.3.2. 電子コンテンツ管理に関わる諸問題

NELLCOのTracy Thompson氏より、電子コンテンツの管理についてLegal Scholarship Repository(LSR)を中心に事例報告。BEPress社ソフトを利用したLSRへの取組について説明。レポジトリに登録されたコンテンツの利用について議題を提示。

1.3.3. 電子ジャーナルの変容と諸問題

JANULの土屋俊氏より、電子ジャーナルに関する現状分析とそれに関る諸問題を提示。特にオープンアクセスジャーナルの展望と保存について議論。LOCKSSを実験的だが大きな価値ありと認識。地域ごとの資料保存については継続討議。

1.3.4. 統合検索エンジン

統合検索エンジンMichigan eLibrary、WebFeat、Metasearchについて、開発の経緯と現状分析。また各種統合検索エンジンとGoogle検索アプライアンスを比較し、その評価を報告。

1.4. Split Session

1.4.1. 利用者ニーズと満足度の測定について

機関・コンソーシアム・ネットワークの三者から利用者満足度調査の事例報告。

1.4.2. コレクション分析について

雑誌の分析プロジェクトについて事例報告。ごく少数の図書館でしか購読していない“危機的状況”にある雑誌が非常に多くあることが判明。

1.4.3. 資料の共同保存について

資料保存に関る諸問題が討議され、共同保存書庫は有為であるとの結論。

1.4.4. ビッグ・ディールについての考察

①Elsevier社にとって世界第2位の顧客であるCDL(California Digital Library)の契約事例報告。

②Elsevier社、Blackwell社、Springer Kluwer社とOhiolinkの契約事例報告。

1.5. Business Session

1.5.1. Business Session 1.

電子資料のＩＬＬについて意見、ICOLCによる電子資源のＭＡＲＣ規準改善に協力要請、Standard Encyclopedia of Philosophyについて報告、COUNTER、電子資料基準、作成中の電子ブック規準へ協力要請、ICOLC国際化について討議。

1.5.2. Business Session 2.

今後の大会運営についての報告と討議。各分科会の報告、継続審議事項の提案。

1.6. まとめ

北米中心に始まったICOLCだが、積極的な国際化への努力の結果、現在では世界中から多様な規模・構成のコンソーシアムが参加する。電子的情報資源以外にも共通の関心事は多く、多方向の情報交換が行われた。

2. 図書館訪問

2.1. 概要

4/13午後から4/17にかけて、下記8図書館を訪問した。（以下、訪問順）

2.2. Harvard University Documentation Center on Contemporary Japan

現代日本についての資料を収集。アジア系資料収集館Yenching Libraryに対し、資料センター的役割を果たす。

2.3. Harvard University Weidener Library

Harvard大学を代表する図書館。貴重資料を多数所蔵。リクエストベースの講習会を年10数回行ない、講習会終了後は資料を参照用としてホームページ上に保存。

2.4. Harvard University Countway Library of Medicine

世界最大規模の医学図書館のひとつ。一般

公開はしないが、ＩＬＬ等で広く資料を提供。医学分野の歴史的資料を数多く保存。職員研修に力を入れている。

2.5. Boston University Alumni Medical Library

職員はMedical Library Association でAHIP(Academy of Health Information Professionals)を取得。ワークショップを多数開催。データベース等図書館資料の利用法に限らず、パワーポイント等の良く使われるソフトの講習会も行う。

2.6. Library of the Academy of Notre Dame, Tyngsboro

小学校から高校まで一貫教育を行う。毎週図書館の授業があり、資料利用法・著作権・文献の参照・レポートの書き方などを教育。

2.7. Boston Public Library

アメリカで最初に一般公開した図書館。歴史的建築物としての価値も高い。ボランティアによる館内の美術品ツアー、収蔵資料の展示会等を数多く開催。一般図書館と研究図書館の２館構成で、その他27の分館とともに充実した市民サービスを行う。

Boston Public Library

2.8. Harvard University Yenching Library

アジア系資料を収集する。職員70名で各言語・分野を分担する。

2.9. 利用者教育・職員教育

いくつかの館で、利用者教育・職員教育について尋ねた。

利用者教育では、利用者の要求について調査・情報交換を行い、利用者のニーズに沿う講習会等を開催している。

また、専門知識・経験豊富な職員確保が困難なため、研修プログラムへの参加や現場研修を通し、専門知識と技能の向上につとめている。特にCountway Libraryでは、特に利用者とのコミュニケーション技術向上を課題とし、毎週のミーティングで研鑽をはかっていた。

終わりに

今回の出張に際しては、多くの方にご尽力いただきました。特に下記の方々には、この場を借りて御礼申し上げます。（敬称略）

土屋俊（千葉大学）、井上修（東京工業大学）、藤田儒聖（島根県立大学）、松下茂（株式会社サンメディア）、鈴木英明（Infonetwork,Inc）、小川哲次（広島大学歯学部）、田口明（広島大学歯学部）、Sok-Ja Janket（Harvard University）、坂口和子（Harvard University Reischauer Institute of Japanese Studies）、Linda Arsenault (Simmons College)、広大図書館職員の方々。

また、ICOLC総会概要は、島根県立大学の藤田氏と分担執筆したものを圧縮・編集して使用しました。

参考文献

１）国際図書館コンソーシアム連合
http://www.library.yale.edu/consortia/

２）藤田儒聖，庄ゆかり，井上修．国際図書館コンソーシアム連合（ICOLC: International Coalition of Library Consortia）ボストン大会参加報告．大学図書館研究．No. 75，2005（掲載予定）

３）庄ゆかり．ICOLCボストン大会参加報告＆近郊図書館訪問記．広島大学図書館公開研修発表会，2005.7.15.

新サービスあれこれ

中央図書館

アメニティコーナー（休憩コーナー）を作りました。

中央図書館1階北西側テラスにアメニティ設備として、休憩コーナーを設けました。自由に出入りできますので、図書館での学習や読書の合間に、気分転換する場として、ご活用下さい。　なお飲食・喫煙はできませんが、携帯電話の使用、友達同士でのおしゃべりも、ここでなら可能です。日差しの強い日は、各テーブルに備え付けのパラソルを開いて下さい。（内側のひもを引っ張り、開いたところで金具を支柱に差し込んで留めて下さい。）

利用時間　平日　9:00～17:00、土・日（授業期）10:00～17:00

海外衛星放送テレビ（AsiaSat 3S）を設置しました。

留学生の皆さんに特にご利用いただきたく、1階北西に海外衛星放送受信システムを設置しました。

衛星（AsiaSat 3S）から配信されている約６０チャンネルの放送をヘッドフォンを利用して同時に２人まで視聴できます。放送されている言語は、中国語、アラビア語、ヒンドゥ語、ウルドゥ語などですので、チャンネルは自由に変更してご利用ください。

留学生の方、外国からの研究者の皆さんをはじめとして、現地からの生の情報に接したい、あるいはアジア諸国に興味のある方等々、是非ご利用下さい。

地域交流プラザを開設しました。

１階入館ゲート左手奥にあった事務室を館内スペースの有効活用のため地下１階に移動し、その跡を「地域交流プラザ」として改装・整備し、７月１日にオープンしました。

ここは、広島大学と地域の方々を含めた利用者の皆様との交流を目的とし、広報資料やパンフレット類を配架し、図書館が所蔵する貴重資料を展示しています。

また、利用者の皆様の研究・学習成果（写真や絵画等の作品）を発表する場としても提供していますので、ご希望がありましたらお申し出下さい。

プラザ内にはテーブル・椅子、ソファもありますので、くつろぎの場としてもお気軽にお入り下さい。

レファレンス・カウンターの新設とその後

2004年５月17日（月）より、レファレンス専用カウンターを新設し、約一年がたちました。

以前は、相互利用サービス、個室の利用手続き等と同じカウンターであったため、利用者をお待たせすることも多く、またお問い合わせを充分お聞きすることができないこともあり、職員としては大変心苦しく思っておりました。

レファレンス・カウンターでは、レファレンス担当職員が、利用者のお問い合わせにお答えし、ご相談に応じることができるようになりました。

ほぼ一年経った現在では、利用者の間でレファレンス・カウンターの存在がだいぶ定着したようで、カウンターでのレファレンス依頼件数も当初の約1.5倍になりました。今後ともお気軽にお声をかけて下さい。

西　図　書　館

西図書館フロアサービスの充実について

西本　篤夫
（利用者サービスグループ　西図書館フロア主担当）

西図書館は、平成17年度から以下のような新しいサービス等を開始し、フロアサービスの充実を図っています。

1．少人数（４人以下）によるディベート学習などに利用するために、３階に防音設備の整ったグループ閲覧室を新たに５室設けました。
2．図書館のバリアフリー化を図るために、１階の車椅子の方等通用口や２階の北側スロープなどを整備しました。
3．図書を簡単に探せるように、OPACの配架場所説明・各コーナーのサイン表示を分かりやすくしました。
4．学生・地域の方などから親しまれるために、人物・動物・風景などの写真展や各種展示会をロビー等で開催しています。
5．新入生などが関心を持てるように、新着図書コーナーに、小説、学習図書、新書、文庫、漫画など利用頻度が高くポピュラーな図書を揃えました。

東　図　書　館

東図書館情報リテラシー研修室開設と無線ＬＡＮ環境整備について

高橋　弘子
（利用者サービスグループ　東図書館フロア主担当）

東図書館では平成17年５月12日より情報リテラシー研修室の運用を開始しました。

情報リテラシー研修室は、学習・研究に必要なデータベース・電子ジャーナル活用に関する講習会やネットワークを利用する授業での利用を目的として開設されました。

研修・授業で使用されている時以外は、Linux端末21台を自由に利用していただけます。研修室は東図書館１階にあります。図書館２階入り口から入館し、書庫経由で入室してください。

開設して２ケ月余りですが、既に図書館利用サービス企画主担当によるデータベースの利用講習会が数回実施されているほか、授業にもご利用いただき、研修室として大いに活用されております。
また、４月15日から中央館、医学分館、東千田分室、東図書館とも館内の無線ＬＡＮ環境が整いました。従来から整備されていた西図書館も含めて、これで広島大学図書館・室すべての無線ＬＡＮ化が実現したことになります。

ワイヤレス接続対応のパソコンをお持ちの方は、ご自分の使い慣れたパソコンでネットワークを利用することができます。初期設定については、各図書館・室に「情報コンセント利用ガイド」が用意されていますのでカウンターにお申し出ください。

この２件の整備により、東図書館内でのパソコンを使った学習環境はある程度整いました。

従来、東図書館ではコンセント数の不足のため、ネットワーク接続をしないパソコンですら、持ち込みをお勧めできる状態ではありませんでした。

環境整備の必要性は従来から感じており、また大学の報告書等でe-learning 環境整備が謳われ、方針が示されていたことも承知していました。そんな折り「e-mailでレポート提出」と明記された授業プリントの忘れ物を発見し、授業もネットワークを利用した形態に確実に推移しつつあること、それに対する早急な対応が必要であることを痛切に感じました。

それらを契機として図書館より情報政策室へ実情を伝えたところ、「キャンパス・ユビキタス・プロジェクト」の一環として無線ＬＡＮ整備が行われ、また研修室開設に関してもご協力をいただきました。ご尽力くださいました情報政策室へ御礼申し上げます。

情報リテラシー研修室の今後の課題としては、運用開始以来、既にご要望いただいている、Windows対応パソコンの設置や文書処理が可能なソフトを備えた状態にすることが挙げられます。ネットワーク時代のリテラシー（＝読み書き）技術の習熟支援のため、講習会の実施とともに、環境の整備に努めてゆきます。

どうぞ東図書館来館時には情報リテラシー研修室に足をお運びください。

医　学　分　館

医学分館の整備について

土佐　智義
（広島エリアグループ　医学分館フロアサービス主担当）

医学分館は、1981年に竣工して、はや四半世紀を迎えようとしています。

この間、関係部局及び全学の多大なるご支援、ご理解をいただいて限られた予算ながらも資料及び機能の充実に努めてまいりました。

また、年々増加する資料の蓄積に対応して館内施設を書架スペースへの転用、書架の2階部分を増設するなどして収容の工夫を行ってきました。

2004年には文部科学省跡施設の利用を認められ、重点的に医学分館の整備を行いました。

この一連の整備は十分とはいえませんが、整備内容及び今後の課題をご報告いたします。

１．自習室の整備

医学分館では、試験期はもとより日常的に席数が足りないため、学生は学習空間確保のためにキャンパス内を右往左往し、昨今の市民開放も加わって席数不足は慢性的な状況です。

こんな状況を少しでも緩和するために、２階の書庫（65㎡）を改装し、新たに４人掛閲覧机を８脚（32席）設置して快適な学習環境を整備しました。

２．情報検索環境の整備

医学分館は、学内の他図書館に比して情報アクセス環境の整備が遅れています。

スペースの大半を資料収蔵に充てざるを得なかったためとはいえ、利用者の情報アクセス環境の整備も必須の課題でした。

先述の自習室に15の情報コンセント（有線）を敷設すると共に、館内の２箇所に無線ＬＡＮを設置して持ち込みパソコンの利用が可能となりました。

さらに、２階にＯＰＡＣ検索を主目的としたパソコン２台を設置しました。

自習室

デポジットライブラリー

３．書庫の増設と資料再配置

分館の書庫は満杯状態で、資料が入荷する度に館員総出による大幅な資料の移動を余儀なくされていました。

このことは、単に館員の労力を取るだけでなく、サービスに傾倒すべきエネルギーを不益なエネルギーに転換していました。

この度、学内のご理解をいただいて文部科学省跡施設に、約1,500棚の書架を設置して利用頻度の低い図書及び1979年以前の和文雑誌のデポジットライブラリーとして整備しました。

書庫は職員による出納式としたので、和文雑誌を利用の方にはご不便をおかけすることとなりましたが、開架図書室にあった資料を移設して従来の書架に若干の空きスペースをとったため、図書を元の位置に戻すのに苦労された利用者の皆さんもきっと喜んでくださっていると思います。

しかし、完成してみると、少しは空いたかな？程度の空き棚が散見できるくらいで、直ぐに満杯になることを恐れています。

４．施設の整備等

１）多目的スペース

従来は、セミナー室が利用中の場合、少人数グループによる学習施設が無く、ご不便をおかけしていました。

図書館の会議のために設置した室を、会議、少人数セミナー及びグループ学習にも利用可能としたので、カウンターでご相談ください。（図書館の会議又は公的会合が開催される場合は、そちらを優先）

２）DVD視聴機器の設置

セミナー室及びメディアプラザにＤＶＤ再生装置を各１台設置して、ＤＶＤの利用を可能としました。

３）照明器具の取替え

４年がかりとなりましたが、館内の照明をインバーター式照明器具に取り替えて省エネ効果を上げると共に照度を上げて明るい環境を築きました。

５．医学分館整備の課題

１）診療支援

本学では、他の多くの医学図書館で整備されている臨床にかかる多くのデータベース整備が遅れています。

例えばＥＢＭ、Cochrane、UpToDate、治療ガイドライン情報収集等々、分館に負わされた多くの課題も関係部局のご協力を仰ぎながら前向きに検討しなければなりません。

２）社会貢献

医学分館の保健関連情報の医療機関従事者及び患者に対する提供は十分とはいえません。

インターネットの発達した時代に在宅のまま情報が入手できる環境が整備されたとはいえ、患者の求める正しい医療情報を患者自らが入手できる環境を整備するのも医学分館の課題といえます。病院の設置主体者である大学病院と協力しながら、その実現に努めなければなりません。

３）資料の充実

命にかかる診療をバックにしているだけに、頻繁に改訂される生命科学関係図書の整備をはじめ、現在の印刷媒体及びe－Book資料の充実並びに国家試験関連資料の整備も基本的な課題として残されています。

４）アメニティ空間の確保

限られた空間の中にも、快適な学習・教育・研究環境の整備のために、教養・娯楽資料を利用した「リフレッシュ空間」の整備も望まれます。

５）メディアプラザ及び視聴覚資料の整備等

ＢＳ放送の受信設備、学会等のプレゼンテーション資料作成設備、ＶＨＳ及びＣＤ、ＤＶＤ再生並びに作成装置の設置等、課題は多く残されました。

無論、再生設備もさることながら、昨今の臨床研修には必須のOSCE関連資料、高齢化社会に貢献する介護・保健関連資料、医学英語学習関連資料、TOEIC関連資料等、ソフトの整備も求められています。

これらの設備・資料を、開館時間内であれば誰にも遠慮なく自由に利用できる空間は図書館をおいてありません。関係各位のご協力を仰ぎながら、整備に努めたいと切望しています。

６）その他

中央館と共同して医学資料館の所蔵資料のディジタル化、24時間開館、機関リポジトリー機能の整備、医療情報部と連携した診療情報発信等、課題を掲げれば枚挙に暇がありません。

抱える課題を一つずつ整理して克服し、利用者の皆さんが喜んで図書館を後にされることを生き甲斐に（ネット利用では、館員として利用者の感動が味わえませんが…）、一層の研鑽を積まなければならないと思っています。

ホームページから利用できる
新しいサービス

「原爆・被ばく関連資料データベース」公開

西本　勉
（広島エリアグループ　広島エリア担当副課長）

広島大学原爆放射線医科学研究所（以下「原医研」）は、1961年の設立以来現在まで原爆・被ばくの実態解明に欠かせない学術資料を収集しています。

「原爆・被ばく関連資料データベース」は、日本学術振興会の平成15年度･16年度の科学研究費補助金（研究成果公開促進費）の交付を受けて、広島大学図書館が原医研と共同で、原医研が所蔵するその資料を電子化したものです。

平成17年４月から図書館ホームページで公開していますのでご利用ください。
（http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/abdb/）

１．データベースの構成

（1）「原爆・被ばく」をキーワードとする新聞切抜き記事　約41,000点
収録範囲：
昭和42（1967）年から昭和54（1979）年の中国・朝日・毎日・読売新聞の記事

（2）米国陸軍病理学研究所（AFIP）から返還された医学的写真資料　約1,200点
・米国陸軍病理学研究所（AFIP）が収集し、持ち帰った原爆被ばく直後の広島の写真及び関連する病理学写真等（日本に返還され、原医研が所蔵する資料）

（3）原爆・被ばく関連の図書資料の書誌事項　約6,200点
・広島大学原医研附属国際放射線情報センターが所蔵する図書・雑誌のうち、「原爆・被ばくに関連のある資料（図書・雑誌）の書誌情報」

（4）原爆被爆物理試料データ　約1,200点

（5）米国及び旧ソ連核実験実施記録データ　約1,800点

２データベース公開の意義

（1）原爆・被ばくの実態解明には医学、物理学、人文社会学といった複合的な視点による考察が不可欠であることが指摘されています。今回データベース化した資料は、様々な視点から原爆・被ばくによる被害の全体像を解明し得る貴重な学術資料と言えます。このデータベース化により原爆の実態を広く公開できると共に、広汎な分野の研究者等による新しい考察を加えることが可能となる期待。

（2）このような記録を公開することにより、広島・長崎の惨劇の風化防止、更には惨劇の根絶（核兵器の廃絶）のしるべとなるよう世界に発信するという意義

３．データベースの利用

（1）新聞切抜き記事以外は、データの検索・閲覧には利用者認証は不要です。

（2）新聞記事データ利用に関する利用申請
①利用申請（Web上で申請できます。）
②仮登録（E-mailで、『仮登録』の連絡）
③利用資格を証明する書類（写）を郵送
④利用許可（E-mailで連絡）
⑤データベースの利用開始

4．著作権

データベースの中の新聞記事データは、電子化およびネットワーク上での公開に関する許諾を中国、朝日、毎日及び読売の各新聞社から得ています。新聞記事の著作権は、各新聞社に帰属します。また、データベースの著作権は図書館に帰属します。

5．「原爆被ばく60周年記念展示会」（下記日時に開催しました）

テーマ：60年の時代（とき）を超えて
　　1945年の夏が見えます。
日　時：８月４日（木）～10日（水）10時～20時
場　所：紀伊国屋書店（広島市紙屋町）
展示物：原医研所蔵の「原爆・被ばく関連資料データベース」作成資料の一部

オンラインチュートリアルに触れてみよう

川上　裕
（学術情報マネジメントグループ　コンテンツ形成主担当）

オンライン上で利用できる学術情報サービスには、沢山の種類があります。それぞれのサービスは、蓄積している情報に特色を持たせており、他のサービスとの差別化を競っています。またＡというサービスとＢというサービスが、全く同じ操作方法で利用できるということは、そう多くはありません。

このような学術情報の渦の中から欲しい情報を見つけ出す手助けとして、新たに「オンラインチュートリアル ―学術情報活用ガイド―」（http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/online_tu/online_tu_menu.html）を作成し、図書館ホームページから提供を始めました。

この４月11日にオープンしたばかりです。情報探索ガイドのツールとしては、まだまだ力不足の面もありますが、より効率的な自学自習システムとして改良をすすめる計画です。お引き立てのほどよろしくお願いします。

広島大学所蔵奈良絵本・室町時代物語（デジタル郷土図書館）

http://www.lib.hiroshima-u.ac.jp/dc/kyodo/naraehon/muromachi_top.html

尾崎　文代

（学術情報サービスグループ　参考調査主担当）

このたび、平成15～16年度広島大学地域貢献特別事業の一環として、図書館所蔵の貴重資料である奈良絵本・室町時代物語のウェブページを公開いたしました。（図１）

奈良絵本とは、主に室町時代後期から江戸時代中期にかけて製作された絵入りの写本であり、御伽草子などの物語を絵入り本にしたものが多く、また装丁も金箔などを用いた美麗なものが多数を占めています。このページには、広島大学所蔵14作品の画像・解説・翻刻・あらすじを掲載しました。また、親しみやすい効果を取り入れ、美しい奈良絵本の世界を表現しています。

この機会に、研究者の方々のみならず広く一般の方々にも、奈良絵本・室町時代物語を楽しんでいただければ幸いです。

図１

図２

画像には各々翻刻文を付しています。

図２は、御伽草子の継子物の代表作である「花世姫」です。山姥の力を得て姫が幸福な結末を迎える物語は、シンデレラ姫を想起させるとも言われています。

主な伝本には、無刊記絵入版本三冊（赤木文庫旧蔵、天理図書館、東洋文庫、東北大学附属図書館）と、この奈良絵本二冊（広島大学蔵本・写本）があります。

また、挿絵部分を順に閲覧しながらあらすじをたどる「絵で読む」ページもあります。

図３は、源平合戦屋島の戦いを描いた「やしまのさうし」です。平泉に下向する源義経が、屋島で義経の身代わりとなって戦死した佐藤継信・忠信兄弟の母親に出会って形見を手渡す物語で、幸若舞曲としても有名です。

図３

図４

図４は、雀が怪我の介抱をしてくれた姥に恩返しをするという「雀報恩事（宇治拾遺物語）」を奈良絵本にした「す、めの夕かほ」です。

文字の部分にカーソルを合わせると翻刻文字が浮かび上がる効果を取り入れています。

この広島大学蔵「す、めの夕かほ」は現存する唯一の伝本で、美しい挿絵は『瓜と龍蛇』（1989福音館書店）など、刊行物にも多く掲載されています。

掲載作品（五十音順）

「伊勢物語」「す、めの夕かほ」「硯わり」「住吉物語」「たはら藤太」「中将姫」「つるのしうけん」「はちかつき」「花世姫」「ふんせう」「やしまのさうし」「横笛草紙」「よしのふ」「頼豪阿闍梨絵巻」

平成16年度図書館事業報告

講演会・シンポジウム等

平成16年度において広島大学図書館は以下のシンポジウム等を開催し、国公私立大学図書館関係者を中心に、教員、企業関係者等多くの方々にご参加いただきました。
（講師等の所属は開催当時のものです。）

①学術講演会「インターネット世界の中の大学図書館の役割」
開 催 日：平成16年９月28日（火）
講　　師：土屋俊（千葉大学文学部教授）
＊広島県大学図書館協議会との共催

②シンポジウム「学会出版と学術コミュニケーション活動の変革　～SPARC/JAPANを事例として～」
開 催 日：平成16年10月15日（金）
基調講演：大場高志（国立情報学研究所開発・事業部コンテンツ課長）
講　　演：木村　優（富山大学附属図書館情報サービス課長）
永井裕子（日本動物学会事務局長）
北村明久（名古屋大学附属図書館情報管理課長）
総合司会：道端　齋（広島大学大学院理学研究科教授）
＊国立情報学研究所及び国立大学図書館協会国際学術コミュニケーション委員会との共催

③第17回国立大学図書館協会シンポジウム西地区
「法人化後の大学改革と大学図書館の在り方」
開 催 日：平成16年11月29日（月）～30日（火）
基調講演：吉里勝利（広島大学理事・副学長（研究・国際担当）・図書館長）
特別講演：笹川郁夫（東京大学附属図書館事務部長）
特別報告：郷端清人（立命館大学びわこ・くさつキャンパス研究部門次長）
：甲斐重武（九州大学附属図書館情報システム課長）

事例報告：原　三郎（北陸先端科学技術大学院大学事業部長）
中井えり子（三重大学図書・情報部学術情報課長）
野村正人（広島大学図書館部利用者サービスグループ主査）
栗山　平（福岡教育大学附属図書館情報管理課長）
＊国立大学図書館協会主催

④広島大学図書館・九州大学附属図書館ジョイントシンポジウム
「新時代の学術情報ナビゲーション・システム　－産学連携のショウウインドウとしての大学図書館－」
開 催 日：平成17年３月３日（木）
基調講演：竹内比呂也（千葉大学文学部助教授）
報　　告：高橋昭治、足立泰（エルゼビア社）
尾城孝一（千葉大学附属図書館情報サービス課長）
鈴木宏子（東京大学附属図書館情報サービス課参考調査掛長）
＊翌３月４日九州大学附属図書館において同内容のシンポジウムが開催された。

主要行事等報告（2004年５月～2005年６月）

行事等

16.6.2　原爆・被ばく関連資料DB公開記念式典

館内会議等

運営戦略会議	16.5.25, 16.6.14, 16.6.29, 16.7.21, 16.9.28, 16.10.4, 16.12.6, (17.1.7), 17.2.10, (17.2.17), (17.3.15)
事務連絡会	16.4.27, 16.5.28, 16.6.25, 16.7.29, 16.8.30, 16.9.28, 16.11.5, 16.12.10, 17.1.26, 17.2.28, 17.3.29
広報委員会	16.5.19, 16.8.4, 17.1.25, 17.3.18
収書事務委員会	16.6.25, 16.7.15, 16.8.5, 16.9.17, 16.10.15, 16.11.19, 16.12.17, 17.1.21

会議等（学外）

16.5.20	国立大学図書館協会常務理事会・新理事候補館懇談会（東京大学）
	九州大学・ソウル大学校図書館間交流協定による国際セミナー（九州大学）
16.5.21	国大図協理事会（東京大学）
	国大図協会賞受賞者選考委員会 (東京大学)
	国立大学法人等採用試験懇談会（東京大学）
16.5.26	広島県大学図書館協議会幹事館会議、研修企画委員会（広島大学）
16.6.17	広島県大学図書館協議会総会 （広島県立保健福祉大学）
16.7.1	第51回国立大学図書館協会総会（大阪大学）
16.7.2	六地区合同図書系二次専門試験委員会（京都大学）
16.7.5	大学図書館職員長期研修（国立オリンピックセンター）
16.8.3	広島県大学図書館協議会研修企画委員会（比治山大学）
16.8.5	国大図協経営問題小委員会打合せ（岡山大学）
16.9.3	国公私立大学図書館協力委員会主催シンポジウム（慶応大学）
16.9.9	平成16年度中国地区著作権セミナー（広島県庁）
	国大図協総務委員会、シンポジウム打合せ（東京大学、一橋大学)
16.9.13	第一回広島県大学図書館協議会研修会（広島国際学院大学）
16.10.1	国立大学法人等採用図書系専門試験関係委員会（名古屋大学）
16.10.7	中国四国地区国立大学図書館協会実務者会議（鳥取大学）
16.10.18-19	中国四国地区大学図書館協議会研究集会（岡山大学）
16.10.18-29	NII総合目録ＤＢ実務研修（NII）
16.10.22	国大図協理事会（京都大学）
16.11.18	図書系専門試験委員会（東京大学）
	国大図協人材委員会（東京大学）
16.11.25	広島県大学図書館協議会第三回研修会（広島女学院大学）
16.11.26	国大図協中四国地区部課長会議（岡山大学）
	国大図協中四国地区専門試験実施委員会（岡山大学）

16.12.13	NII学術ポータル担当者研修（NII）
16.12.17	国大図協経営問題小委員会中国四国地区打合せ（広島大学）
17. 1 .19-21	学術情報リテラシー講習会（NII）
17. 1 .20	国大図協人材委員会人材育成班会議（NII）
17. 1 .27	国大図協経営問題委員会等（九州大学）
17. 2 .22	東大柏図書館開館式
17. 3 .16	国大図協総務委員会（東京大学）
17. 3 .18	国大図協人材育成班会議（NII）
17. 4 .11	ICOLC会議（USAボストン他）
17. 4 .14	国大図協人材育成班会議（NII）
17. 4 .21	中国四国地区大学図書館協議会総会（山口大学）
17. 4 .22	国大図協中国四国地区協会総会（山口大学）
17. 4 .27	県大図協研修企画委員会（広島大学）
17. 4 .27	県大図協幹事館連絡会議（広島大学）
17. 5 .20	国大図協人材委員会　　（東京大学）
	国大図協経営問題委員会等（東京大学）
	国大図協理事会（東京大学）
17. 6 . 1	広島県大学図書館協議会総会（日本赤十字看護大学）
17. 6 .10	国大図協中国四国地区学術情報事務部長会議（広島大学）
17. 6 .29	国大図協人材委員会（名古屋大学）
17. 6 .30	国大図協総会（名古屋大学）

来館者・見学者（来訪順）

昭和37年政経学部卒業生「政経寮OB会」、愛媛県立松山南高校PTA、世羅町「大見高齢者大学」、呉地区高等学校図書委員並びに図書部員、三次市立三和中学校１年生、岡山県立笠岡高等学校PTA,　中国四川農業大学、広島県立安芸府中高校PTA,　フルブライト・メモリアル基金アメリカ人教育者、広島県立広島高等学校（職場体験）、信州大学、全国大学生活協同組合連合会センター長会議参加者、広島県立図書館

Library Navigator Series

江森　早穂
（学術情報サービスグループ　参考調査主担当）

平成15年度に参考調査係で実施した「図書館サービスに対する教官のニーズ聞き取り調査」で、教官に提案されたアイデアを実現させたものである。

広大教員にその専門分野での図書館利用の実際を語ってもらい、学生に図書館利用の具体的な方法を学ぶ機会を与え、図書館に対する親しみを増してもらう。図書館職員には、専門分野での資料の知識を深め、プレゼンテーションの手法について学ぶことを目的としている。　本シリーズ第1回としては、提案者でもある、高谷教授にお願いした。

Library Navigator Series ①

「図書館から人類学がみえる～“大学図書館”から広がる“知的ワンダーランド”～」と題して、平成17年2月9日（金）13:30～15:00、西図書館グループ閲覧室にて行われた。参加者は30名。内訳は教員1名、大学院生10名、学部生5名、学外者3名、図書館員11名であった。

パワーポイントを用いた約30分の講師のお話の後、場所を書架スペースに移し、実際に図書、雑誌を手にとっての説明を受けた。講師の軽妙な語り口に、図書館内でもあり、通常の図書館利用者に遠慮しながらではあったが、しばしば笑い声が沸き起こっていた。その後グループ閲覧席に戻り、講師に対する質問、図書館に対する要望等を受け付けたところ、多くの意見が寄せられた。

終了後のアンケートでは、ほぼ100パーセントの参加者が満足であったと答え、また同様の催しをしてほしいとのことであった。

Library Navigator Series ②

前回好評につき、より多くの参加者を想定して、2回目は7月1日（金）13：30～14：30、中央図書館ライブラリーホールにて、「お伽草子を　聴く、観る、読む、――広島大学図書館所蔵の貴重書をめぐって」と題して、図書館長位藤邦生教授の講演が行われた。今回は館長就任記念でもあり、また中央図書館1階に開設された、地域交流プラザオープニング記念式典と併せての開催であったこともあり、学内外の大変な話題を呼び、立見の聴衆も含めて参加は180余名にのぼった。

位藤館長の講演に引き続き、尾崎図書館職員によるWeb上でのお伽草子のデモンストレーションが行われた。その後希望者には、通常は学生、教職員も入ることのできない貴重書庫の見学および、貴重書庫内の資料の藤川助手による説明があり、参加者によれば、どの部分も大変印象的で感銘を受けたとのことであったが、全て短か過ぎたというのが圧倒的な数の感想であった。

なおSeries ①、②ともに講演、館内ツアーの模様は全てビデオに収められ、希望者は視聴することができる。

Library Navigator Series ③（予定）

被爆60周年記念講演会

「原爆報道・戦後体制と平和構築

　　自著を語る－平和学コレクション－」

日　　時：平成17年10月18日（火）13：10～17：00

場　　所：中央図書館ライブラリーホール

プログラム：講演１「アメリカによる原爆報道検閲の理由」

　　講師：モニカ・ブラウ

　　講演２「戦後責任を考える：日本とドイツの比較から」

　　講師：廣渡清吾

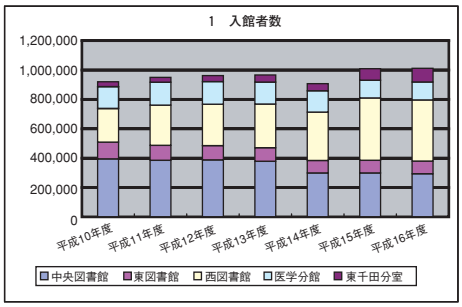
　　ディスカッション－二つの講演を巡って

　　進行・提言：松尾雅嗣

広島大学図書館統計

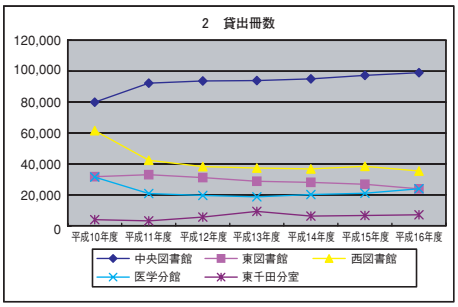
1　入館者数　　人

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	394,191	384,950	387,846	378,261	298,582	298,810	293,405
東図書館	114,259	101,635	96,535	91,913	84,714	86,232	85,926
西図書館	228,597	273,312	281,888	297,733	329,627	423,767	416,297
医学分館	149,255	156,717	153,966	149,330	145,019	121,231	122,059
東千田分室	33,699	32,974	41,767	48,575	48,510	78,763	93,847
計	920,001	949,588	962,002	965,812	906,452	1,008,803	1,011,534



2　貸出冊数　　冊

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	79,884	92,233	93,632	93,952	95,034	97,263	99,006
東図書館	31,698	32,981	31,102	28,744	28,022	26,798	23,807
西図書館	61,545	42,314	38,224	37,322	36,757	38,382	35,353
医学分館	31,410	20,758	19,542	18,668	20,155	20,955	23,879
東千田分室	3,878	3,102	5,582	9,225	6,206	6,614	7,056
計	208,415	191,388	188,082	187,911	186,174	190,012	189,101

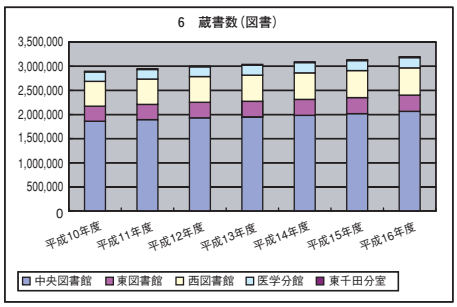


3　参考調査　　件

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	7,758	6,769	6,775	6,790	8,555	9,552	12,990
東図書館	7,247	5,180	3,328	2,816	2,827	2,860	2,849
西図書館	5,911	5,234	5,024	4,706	3,135	3,166	4,304
医学分館	4,658	4,890	4,832	4,928	5,027	4,854	5,029
東千田分室	267	526	662	804	1,012	1,417	3,025
計	25,841	22,599	20,621	20,044	20,556	21,849	28,197

4　文献複写（相互利用（受付・依頼））　　件

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館（受付）	6,474	6,585	6,651	5,776	5,290	7,531	7,261
（依頼）	6,735	8,270	8,566	6,727	5,752	6,335	5,172
東図書館　（受付）	3,784	4,207	4,480	4,471	2,602	2,208	2,319
（依頼）	4,331	3,706	3,370	2,688	1,903	1,853	788
西図書館　（受付）	2,977	3,457	3,629	3,515	3,176	2,669	2,192
（依頼）	3,226	2,431	2,135	2,474	1,858	1,305	1,107
医学分館　（受付）	7,727	7,582	7,055	7,341	6,754	6,252	5,059
（依頼）	8,296	7,985	7,593	5,618	5,748	4,264	3,508
東千田分室（受付）	4	24	1	71	140	146	74
（依頼）	5	126	187	221	333	640	1,263
計　（受付）	20,966	21,855	21,816	21,174	17,962	18,806	16,905
（依頼）	22,593	22,518	21,851	17,728	15,594	14,397	11,838

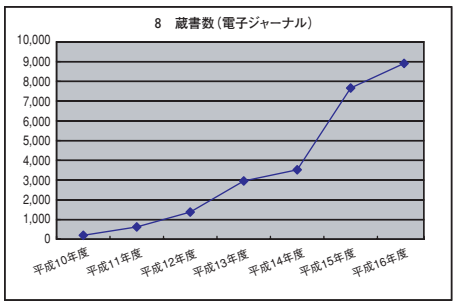


5　相互貸借（貸出・借受）　　件

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館（貸出）	660	780	1,788	1,800	649	922	915
（借受）	1,319	1,234	1,379	1,592	1,348	1,308	1,342
東図書館　（貸出）	124	122	188	190	67	63	104
（借受）	90	83	73	55	51	62	142
西図書館　（貸出）	383	504	388	341	352	423	357
（借受）	405	411	250	203	219	182	358
医学分館　（貸出）	56	36	72	73	76	120	129
（借受）	179	202	264	196	218	190	350
東千田分室（貸出）	12	121	35	160	151	172	161
（借受）	14	250	46	344	354	461	504
計　（貸出）	1,235	1,563	2,471	2,564	1,295	1,700	1,666
（借受）	2,007	2,180	2,012	2,390	2,190	2,203	2,696

6　蔵書数（図書）　　冊

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	1,858,466	1,891,984	1,929,170	1,944,983	1,981,177	2,015,835	2,062,525
東図書館	311,506	316,416	321,677	326,165	330,280	333,473	337,786
西図書館	516,493	525,399	533,815	542,197	549,504	558,993	564,325
医学分館	194,033	197,437	202,091	207,208	212,501	206,905	213,789
東千田分室	15,311	15,960	16,708	17,456	17,080	18,620	20,761
計	2,895,809	2,947,196	3,003,461	3,038,009	3,090,542	3,133,826	3,199,186



7　蔵書数（雑誌）　　種

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	27,989	28,098	30,093	30,303	30,163	32,206	32,224
東図書館	8,744	8,762	9,121	9,187	9,355	9,898	9,693
西図書館	4,207	4,235	3,881	3,930	4,019	4,250	4,260
医学分館	8,366	8,439	8,473	8,568	7,940	8,287	8,357
東千田分室	109	109	239	251	318	377	430
計	49,415	49,643	51,807	52,239	51,795	55,018	54,964

8　蔵書数（電子ジャーナル）　　種

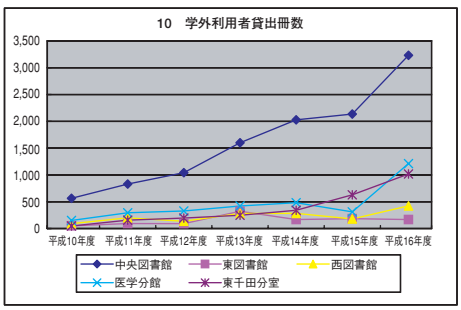
	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
計	201	627	1,381	2,955	3,521	7,662	8,910

9　電子ジャーナル利用統計（対象は国立大学図書館コンソーシアムの主要出版社のみ）

					平成14年度	平成15年度	平成16年度
タイトル数（種）					3,240	4,116	4,404
Full Textダウンロード件数					209,877	374,569	435,318

10　学外利用者貸出冊数　　冊

	平成10年度	平成11年度	平成12年度	平成13年度	平成14年度	平成15年度	平成16年度
中央図書館	563	829	1,041	1,600	2,027	2,135	3,230
東図書館	51	93	91	321	168	184	168
西図書館	91	199	135	281	282	179	423
医学分館	150	294	328	421	481	311	1,210
東千田分室	46	156	195	248	340	629	1,017
計	901	1,571	1,790	2,871	3,298	3,438	6,048



● トピックス ●

★原爆関係図書のミニ展示。（中央図書館展示コーナー）（04.7.26～8.20）

「原爆の日」前後の期間、原爆関係の所蔵図書のミニ展示を行った。

★各館に個人認証不要のOPAC専用パソコンを設置。（04.8.20）

手軽に使えるOPAC専用パソコンを設置してほしいとの要望に応えて設置。

★中央図書館で情報コンセントサービスを開始。（04.9.1）

中央図書館の２階・３階の閲覧個室とグループ閲覧室、１階のライブラリーホールと大グループ室で、利用者が自分のパソコンを持ってきて、学内LANに有線で接続できるようになった。

★王朝文学古写本展を開催。（04.10.1～10.30）

★新たに大学院生（他大学から10月に広大へ入学）向け図書館オリエンテーションを開催。（04.10.5,7）

★東千田キャンパスの研究室所蔵資料を、東千田分室を通して借用可能に。（05.1.5）

同一キャンパスにある研究室所蔵資料の借り出しは、図書館では受け付けておらず、直接研究室へ借りに行ってもらっていますが、東千田キャンパスに限り可能になった。

★Library Navigator Series ①を実施。（西図書館にて）（05.2.9）

教官がその専門分野での、図書館の利用の仕方を利用者に伝授する企画で、第１回は人類学の高谷紀夫教授がナビゲーターをつとめ、タイトルは「図書館から人類学が見える」であった。（詳細は39頁）

★「広島大学図書館活動助成金」（図書館への寄付）の募集開始。（05.2.1）

一般市民、広大OBへ「フレンドリー利用証」の発行開始。（詳細は４頁）

★〔高度生涯学習支援：デジタル郷土図書館〕「広島大学所蔵　奈良絵本・室町時代物語」を公開（詳細は33頁）

★Library Navigator Series ②を実施。（中央図書館にて）

図書館長・位藤邦生教授を講演者に、「お伽草子を　聴く、観る、読む、―　広島大学図書館所蔵の貴重書をめぐって」と題して開催された。（詳細は40頁）

★地域交流プラザを開設。（05.7.1）

地域社会と広島大学との交流、広島大学の紹介、地域の方々の生涯学習成果の発表を目的とした、自由に利用できるスペースとして開設。オープニングセレモニーが開催された。

広島大学図書館「リエゾン」　Vol.30　2005年９月20日　発行
発　行　広島大学図書館　　〒739-8512 東広島市鏡山１丁目２－２
電話　(082)424-6200
編　集　広島大学図書館広報委員会